

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-276040

(43) 公開日 平成9年(1997)10月28日

(51) Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 34/04	5 3 5		A 4 5 D 34/04	5 3 5 B
A 6 1 M 35/00		6958-4H	C 0 7 C 9/22	
C 0 7 C 9/22			D 0 6 B 1/02	
D 0 6 B 1/02			1/14	
1/14			A 6 1 M 35/00	Z
			審査請求 有	請求項の数 1 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-122231

(22) 出願日 平成8年(1996)4月18日

(71) 出願人 593092426

株式会社サンヨーコーポレーション

広島県賀茂郡豊栄町大字安宿3620番地

(72) 発明者 小迫 隆司

広島市安芸区矢野東6丁目10番10号

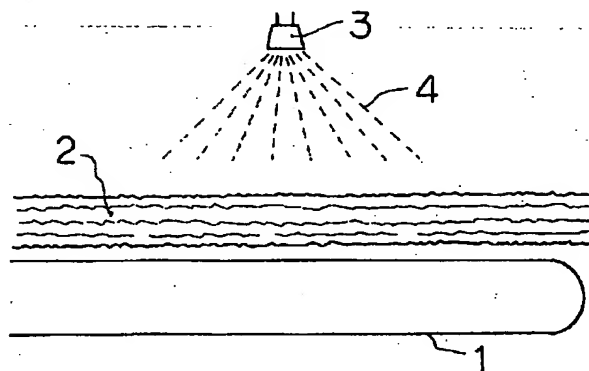
(74) 代理人 弁理士 三原 靖雄

(54) 【発明の名称】 スクワランを含有させた化粧用綿素材の製造方法

(57) 【要約】

【課題】 十分に脱脂・漂白され、使用時に必要な吸水性、化粧水吸収性を十分に持ち、やわらかな肌触りと、クッション感のある風合いを持ち、肌に対するアレルギー、刺激の心配が無く、保湿効果がある化粧用綿素材の製造方法を開発する。

【解決手段】 スクワランの水溶液を、脱脂・漂白された製綿素材にノズルからスプレーするか、この製綿素材にスクワランの水溶液をローラーで塗布するか、この製綿素材をスクワランの水溶液に浸漬するかのいずれかの方法で、製綿素材にスクワランを含有させて化粧用綿素材を製造する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 スクワレンに水素を添加して安定させた物質であるスクワランの原液を水溶液にし、脱脂・漂白された製綿素材にノズルからスプレーする手段、または、上記製綿素材にローラーで塗布する手段、または、上記製綿素材を上記水溶液に浸漬する手段を用いて、上記製綿素材1平方メートル当たりにつき、上記スクワランの原液成分を0.008グラム～800グラム含有させたことを特徴とするスクワランを含有させた化粧用綿素材の製造方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、化粧用綿素材に、使用時の吸水性、やわらかな肌触り、クッション感を与えるためのスクワランを含有させた化粧用綿素材の製造方法に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来、化粧用綿素材としては、原綿中に含まれる不純物、主にろう分、油分、ペクチン質等を精練（脱脂）により取り除き、漂白した素材や、さらに、化学合成柔軟加工剤を用いることでやわらかくした素材が用いられていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の脱脂・漂白したままの素材では、油分・ろう分等の除去に伴い、綿が硬化しやすく、綿本来の弾力性を失い、嵩落ちやクッション感の低下が著しいという問題点があった。それにより、肌触りのやわらかさや、曲面にも柔軟な当たりのある使用性が不充分であるという問題点があった。シリコン系等の化学合成柔軟加工剤を用いてやわらかくした素材では、安全性が懸念され、特に皮膚刺激性等が懸念される問題点があった。脱脂・漂白の度合いを落としてやわらかさを出そうとしたものもあったが、これは、白度の低下や脱脂不足による綿繊維同志の絡み合いの力不足による綿繊維のはがれ等の問題点があった。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記の問題を解決するために、本発明は、スクワランの水溶液を、脱脂・漂白された製綿素材にノズルからスプレーするか、この製綿素材にスクワランの水溶液をローラーで塗布するか、この製綿素材をスクワランの水溶液に浸漬するかのいずれかの方法で、製綿素材にスクワランを含有させて化粧用綿素材を製造することとしている。こうして、綿素材が、スクワラン自体の持つ親油性、浸水性により、使用時に必要な吸水性、化粧水吸収性を十分に持ち、スクワランを油分として補うことにより、脱脂・漂白過程で失った綿の弾力性を十分に復元し、やわらかな肌触りと、クッション感のある風合いを持つことができる。したがって、曲面にも柔軟な当たりのある化粧用綿を提供でき

る。同時に、スクワランが人の皮脂にも含まれる成分であるスクワレンに水素添加して安定化させた物質であることから、肌に対するアレルギー、刺激の心配が無く、保湿効果がある化粧用綿を提供できる。

## 【0005】

【発明の実施の形態】本発明に係わるスクワランを含有させた化粧用綿素材の製造方法は、スクワレンに水素を添加して安定させた物質であるスクワランの原液を水溶液にし、脱脂・漂白された製綿素材にノズルからスプレーする手段、または、上記製綿素材にローラーで塗布する手段、または、上記製綿素材を上記水溶液に浸漬する手段を用いて、上記製綿素材1平方メートル当たりにつき、上記スクワランの原液成分を0.008グラム～800グラム含有させるようにしたものである。

## 【0006】

【実施例】以下この発明を例示図面を参照して詳細説明する。図1は、この発明の第1実施例を説明する説明正面図である。コンベア（1）の上に乗り、運ばれる脱脂・漂白を済ませた製綿素材（2）の上からノズル（3）でスクワラン水溶液（4）をスプレーしている。

【0007】図2は、この発明の第2実施例を説明する説明正面図である。液槽（11）の中にスクワラン水溶液（14）を入れ、2つのローラー（13）の下部がスクワラン水溶液（14）に漬かるように配置し、2つのローラー（13）の間に脱脂・漂白を済ませた製綿素材（12）を挟んで通して、ローラー（13）の表面に付着したスクワラン水溶液を製綿素材（12）に塗布する。

【0008】図3は、この発明の第3実施例を説明する説明正面図である。液槽（21）の中にスクワラン水溶液（24）を入れ、コンベア（25）の上に乘せた脱脂・漂白を済ませた製綿素材（22）をローラー（23）の下を通すことによって、液槽（21）内のスクワラン水溶液（24）に浸漬する。

【0009】第1、第2、第3実施例において、製綿素材（2）、（12）、（22）に含ませるスクワランの量として、製綿素材1平方メートル当たりにつき、スクワランの原液成分が0.008グラムより少ないと、製品の十分なやわらかさを得ることができない。また、800グラムより多いと、十分に乾燥した製品にならない。

【0010】第1、第2、第3実施例において、製綿素材（2）、（12）、（22）として、本出願人出願による高交絡脱脂綿素材の製造方法（特開平6-306753号公報）の中に示される高交絡脱脂綿素材を使用しても良い。

【0011】第1、第2、第3実施例のいずれの手段を用いるかについては、素材の厚み、材質、や、走行速度等の条件によって、任意に選択できる。

【0012】スクワレンは多くのサメ、とくにフジクジ

ラ、カラスザメ、カシミザメなどの深海性のサメの肝油の不ケン化物などに存在する不飽和炭化水素、特に、動物界から初めて取り出されたイソプレン系化合物であり、ヒトの皮脂にも少量含まれているものである。スクワランは、このスクワレンに水素添加して安定化させた物質であり、化粧品成分として、一般に用いられることも多い。

#### 【0013】

【発明の効果】この発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果を奏する。

【0014】綿素材に、充分な脱脂・漂白を行うことにより、容易に不純物の除去ができ、良好な白度を得ることができる。

【0015】スクワラン自体の持つ親油性、浸水性により、使用時に必要な吸水性、化粧水吸収性を十分に持ち、スクワランを油分として補うことにより、脱脂・漂白過程で失った綿の弾力性を十分に復元し、やわらかな肌触りと、クッション感のある風合いを持った化粧用綿を提供できる。

【0016】したがって、曲面にも柔軟な当たりのある化粧用綿を提供できる。

【0017】スクワランが人の皮脂にも含まれる成分であるスクワレンに水素添加して安定化させた物質であることから、肌に対するアレルギー、刺激の心配が無い化粧用綿を提供できる。

【0018】良好な保湿性が得られるため、経時的な乾燥においても毛羽立ちや繊維の剥離が起きにくい化粧用綿を提供できる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の第1実施例を説明する説明正面図である。

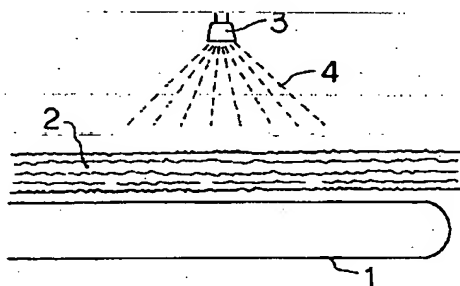
【図2】同じく、第2実施例を説明する説明正面図である。

【図3】同じく、第3実施例を説明する説明正面図である。

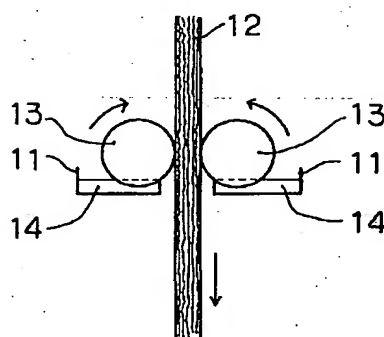
#### 【符号の説明】

- 1 コンベア
- 2 製綿素材
- 3 ノズル
- 4 スクワラン水溶液
- 11 液槽
- 12 製綿素材
- 13 ローラー
- 14 スクワラン水溶液
- 21 液槽
- 22 製綿素材
- 23 ローラー
- 24 スクワラン水溶液
- 25 コンベア

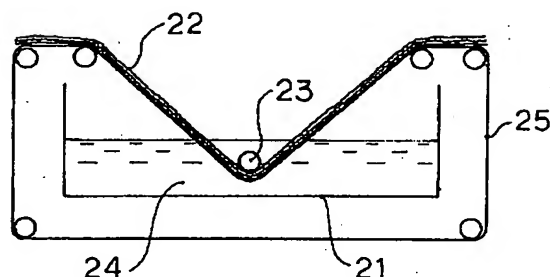
【図1】



【図2】



【図3】



**THIS PAGE BLANK (USPIC)**